

仕事が楽しい人 F i l e . 1 4 : 土屋安代さん (布団側地縫製修理)



◆ 円 (縁) の仕事をする土屋さん

みなさん、レンタル布団をご存知でしょうか。

ホテルや社員寮、そして建築現場では、レンタル布団が利用されています。レンタル布団は、定期的に回収し、消毒クリーニングされるので、利便性だけではなく衛生的なため、個人の一時利用（宿泊客対応など）にも普及しています。

土屋さんは、布団の縫製、修理を行うスペシャリストで、定期的に回収されてくるレンタル布団を新品同様に仕立て直す仕事をしています。

キャリアは、何と、20年。

現在勤めているリネンの工場が建設された平成3年から今日まで、この仕事を続けています。

土屋さんの仕事振りを理解するために、レンタル布団が定期的に回収され、仕立て直す工程を簡単に解説します。

回収された布団は、布団の側地（袋）と綿に分解します。側地と綿は、それぞれ洗濯し、側地はシミや臭いを完全に除去し、破れた部分を縫製します。綿は打ち直し、フワフワに生まれ変わります。最後に、綿を側地に入れて（戻して）、口縫いして完成です。

土屋さんは、この中で、側地の修理（ミシン工程）を担当しています。

布団は3ヶ月から6ヶ月サイクルで回収されますが、この短期間でも、シミ、汚れ、破れなど、生地に痛みが生じます。

特に破れは、場所も破れ方もマチマチなので、一点一点、修理縫製の仕方を工夫しながら仕事を進めていきます。

ですから、1日に修理できる枚数が何枚になるかは、取り掛からないとわからないのだそうです。

土屋さんは入社すると、積み上げられた側地を見て、「今日はここまでやろう」と目標を立てます。縫製作業に入ると仕事に没頭して、あっという間に時間が立ってしまうのだそ

うです。

「兎に角、修理する側地が無くなることはないので、無我夢中で毎日仕事をしています」と、土屋さん。

土屋さんに、「修理する側地が無くなることはない」と言われてみて、私は、「そうだな」と気がつきました。土さんの修理縫製作業は、レンタルしている限り発生し続ける仕事。

要するに、線ではなく円の仕事なのです。

線の仕事とは、スタートとゴールがある仕事。すなわち、目標生産数を決めて、その目標に向かって突き進む仕事です。

円の仕事とは、スタートとゴールが無い仕事。ぐるぐる回る仕事。レンタル布団は、レンタル、回収、修理・クリーニング、レンタルと繰り返されます。ある意味、家事と同じかもしれません。食事をすれば、食器が汚れる。汚れた食器を洗い棚にしまうと、また、食事になり、食器を洗い、片づけの繰り返し。

土さんは、このような感覚から「修理する側地が無くなることはない」と表現したのでしょう。

円の仕事は途切れないので、自分で終わりを決めなければなりません。布団の側地の場合、破れ方はお客様の数だけマチマチで、作業は一定化できません。“使えるものは、最後まで使う”という精神で、一点ずつ手直ししていきます。

土さんと話していて、円の仕事は、まさに、人との縁をつないでいるのだなと、開眼した気がしました。

◆土さんが大切にしているキーワード

一日の仕事を無事に終える

布団の側（布団袋）の傷み方（シミ、汚れ、破れ）に同じものはありません。

毎日毎日が、新しい修理への取り組みになります。

ですから、明日のことより、一日一日の積み重ねが、大切だと考えています。

◆土さんのパワー○○○

子ども達（愛犬）との外出

土さんは、三人の子ども（愛犬）と同居しています。

休日に、電車に乗って遠出をしたり、時には、宿泊旅行に出かけるのが楽しみで仕事をしています。

◆土さんのコツコツ

子ども達（愛犬）との散歩

1年中毎日、5時30分から30分と18時30分から30分、散歩をしています。

（起床時刻は、4時30分、就寝時刻は23時）

◆平堀が感動した土屋さんの心温まる話

毎日戻ってくる多くの布団の中で、貸し出したお客さん自らが、側地の破れを縫製修理した布団があるそうです。

土屋さんは、この布団を見つけると、綺麗に使おうとしている人の心に触れた感じがして、嬉しくなります。

そして、「こういう縫い方もあるんだな」と、20年のキャリアを有する土屋さんをもうならせる縫製をしているケースにも出会います。

布団は、使われる場所によって、例えば、建設現場の場合では、仕事の特性上から汚れや破れは激しくなるのですが、布団の傷み方は使用場所よりも、使用する人によって差が出ると、土屋さんは言います。

場所よりも人によって差が出る。

含蓄のある言葉です。

布団を汚く使うのも、綺麗に使うのも人。

破れた布団をそのまま使うのも、縫製修理するのも人。

ただし、これはあくまでも私の勝手な受け取り方です。

土屋さんの表情には、「布団を綺麗に使って」という要望ではなく、布団を綺麗に生まれ変わらせることが私の仕事で、お客様が修理縫製したやり方から、新しい技術を学び取ろうという気持ちが伝わってきます。

戻ってくる布団は、モノが返ってくるのではなく、使っている人が帰ってくる。

「土屋さんが新品同様に生まれ変わらせるのは、布団というモノではなく、使っている人の心なんだな」

「そんな純朴は思いを持って仕事をしている土屋さんに触れると、なんだか温まるな」という気持ちになり、何だか、“じい〜ん”としてしまいました。

◆土屋安代さんのプロフィール

職業： 布団側地縫製修理

所属： 株式会社レンティ (<http://www.renty.co.jp/>)

◆布団側地縫製修理に求められる能力

自己管理能力： 円の仕事の目標を自分で設定し、やり遂げる力

創意工夫力： あらゆるケースの縫製修理に対応する力と新しい技術を学ぶ力

集中力： 時間を忘れて、仕事に没頭する力

思いやり： 布団を使っている人のことを思いやる力